

教科目名 水力学 (Hydraulic Mechanics)

学科名・学年 : 機械工学科 4 年 (教育プログラム 第 1 学年 ◎科目)

単位数など : 必修 2 単位 (前期 1 コマ, 後期 1 コマ, 授業時間 46.5 時間)

担当教員 : 菊川裕規

授業の概要			
流体工学の基礎となる水力学を学ぶことで身近にある流体運動について興味を持てるようにする。主に一次元および二次元的な流体運動について非圧縮性流体運動の基礎を学ぶ。現実社会で活用されている流体工学の応用問題に本授業で学んだ知識が活用でき、現象が理解できるようにする。			
達成目標と評価方法		大分高専目標 (B2), JABEE 目標 (2.1④) (g)	
(1) 流体の物理的性質を理解し、静止流体力学の基礎理論が理解できる。(定期試験と課題)			
(2) 流体運動の基礎理論を理解し、諸方程式を応用した問題が計算できる。(定期試験と課題)			
(3) 流体摩擦運動と次元解析および相似法則について理解できる。(定期試験と課題)			
(4) 演習問題を通して理解を深めるとともに、継続的な学習ができる。(課題)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1	第 1 章 流体の物理的性質	○身近な流体现象について興味をもてる。 ○流体の種類, 単位系, 密度, 比重等について理解できる。 ○粘性, 表面張力について理解し, 演習問題が解ける。	【理解の度合い】
2	1.1 導入		
3	1.2 流体とは		
4	1.3 粘性		
5	1.4 表面張力	○パスカルの原理が理解できる。 ○マンオメータの原理が理解できる。 ○壁面に作用する力の応用問題ができる。	
6	第 2 章 流体の静力学		
7	2.1 静止流体の圧力の性質		
8	2.2 圧力の測定		
9	2.3 壁面に及ぼす液体の力	○アルキメデスの原理について理解できる。 ○相対的静止力学について理解できる。	【試験の点数】 点
10	前期中間試験		
11	前期中間試験の解答と解説		
12	2.4 浮力		
13	2.5 相対的静止運動	○流れの状態及び流体用語が理解できる。 ○連続の式の導出が理解できる。 ○噴流の経路について計算ができる。	【試験の度合い】
14	第 3 章 流体運動の基礎理論		
15	3.1 流れの状態と流線		
16	3.2 連続の式		
17	3.3 噴流の経路	○流体粒子の加速度について理解できる。 ○オイラーの運動方程式の導出ができる。 ○ベルヌーイの式の導出ができる。 ○ベルヌーイの定理の応用問題が解ける。 ○自然渦と強制渦の違いが理解できる。 ○運動量の法則の導出が理解できる。 ○運動量の法則の応用問題が解ける。	【試験の点数】 点
18	前期末試験		
19	前期末試験の解答と解説		
20	3.4 流体粒子の加速度		
21	3.5 オイラーの運動方程式	○分からなかった部分を理解し, ベルヌーイの定理と運動量について理解できる。 ○粘性法則及び境界層理論が理解できる。 ○平行平板間の流れが理解できる。 ○円管内の流れを理解できる。 ○ロード・レイリー法とバッキンガムの π 定理が理解できる。 ○無次元パラメータが理解できる。	【理解の度合い】
22	3.6 ベルヌーイの定理		
23	3.7 ベルヌーイの定理の応用		
24	3.4 渦運動		
25	3.5 運動量の法則	【試験の点数】 点	
26	3.6 運動量の法則の応用		
27	後期中間試験		
28	後期中間試験の解答と解説		
29	第 4 章 流体摩擦	○ロード・レイリー法とバッキンガムの π 定理が理解できる。 ○無次元パラメータが理解できる。	【理解の度合い】
30	4.1 流体摩擦と境界層		
31	4.2 平行平板間の流れ		
32	4.3 円管摩擦		
33	第 5 章 次元解析と相似法則	【試験の点数】 点	
34	5.1 次元解析		
35	5.2 相似法則		
36	後期末試験		
37	後期末試験の解答と解説	【総合達成度】	
38	履修上の注意		
39	教科書		
40	参考図書		
41	自学上の注意	【総合評価】 点	
42	関連科目		
43	総合評価		
44	達成目標の (1)~(4) について 4 回の試験と課題で評価する。 総合評価 = $0.8 \times (4 \text{ 回の定期試験の平均}) + 0.2 \times (\text{課題点})$ 課題評価の 60% 以上かつ総合評価が 60 点以上を合格とする。再試験は、総合評価が 60 点に満たない者に対して適宜実施する。		